

平成26年度 決算に対する 各党派の見解

強固な財政基盤の構築を目指す

自由民主党議員団

平成26年度決算は、歳入で1324億円、歳出で1274億円とともに大きく伸び、過去最高額となりました。特別区税及び東京都からの財政調整交付金も、対前年度に比べ44億円余増の682億円とこれも過去最高額であります。財政の健全化を示す実質収支比率、経常収支比率、公債費負担比率も大幅に改善されました。これらの要因は確実に景気の回復が進んでいることを意味しており、現政府与党の景気対策が功を奏した結果と言えます。中野区においても、平成24年度より続いた「財政運営上の非常事態」の解除も近いものと思われまます。

しかしながら、世界経済の不安定さや急激な株価の変動、日本においては今後も社会保障費の伸びは続くと思われまます。消費税の増税、中野区では、「子ども・子育て支援新制度」の施行、老朽施設の整備やまちづくり、学校再編など、歳入・歳出構造が大きく変わる可能性があり、さらなる強固な財政基盤をつくる必要があります。

喫緊の課題としては、新しい中野区役所・中野体育館の再整備が挙げられます。さらに、中野区役所・サンプラザ地区一帯再開発、中野駅西側南北自由通路整備も重要な課題です。

私たち自由民主党議員団は、区議会第1党としての責任と自覚を持ち、さらなる区民サービスの充実に努めまます。

長期的視点で区民を守る財政運営を

公明党議員団

平成26年度の普通会計歳入決算は、前年度に比べ14・7%増、実質収支比率も3・5ポイント増の6・2%と大幅に伸びた。経常収支比率が、85・1%と依然として高い水準となった要因は、大規模公園用地を特別会計から一般会計に買い戻す際の公債費が経常経費とされたことが大きい。様々な財政指標から見ても近年稀にみる好決算にみえるが、財政力指標は特別区平均を下回り、楽観視はできず、財政指標の今後の推移を見守る必要がある。

歳出では、見守り対象者名簿の整備や配備、要支援者の個別避難支援計画の準備など、地域の見守り支えあい活動が進められた。また、区立保育園の建替え民営化や小規模保育事業の開設等、待機児対策を前進させた。さらに、安心・安全のための中野駅周辺をはじめとする、西武新宿線沿線や大和町・弥生町の防災まちづくり、大規模防災公園整備などが推進されたことを評価する。しかし、決算一般会計不用額が57億円余と増加し続けていることは改善すべきである。

今後、超高齢化社会の進展と社会保障費の増大、区役所・体育館の建設を始め施設の改築改修、まちづくりの進捗に備え、国や都の動向に注視し財源確保に努めるとともに、長期的な視点で基金の積立を着実に進め、区民生活を守るため堅実な財政運営を求めまます。

区民生活に寄りそった財政運営を

日本共産党議員団

一般会計決算では、認証保育所等保護者補助の増額や学校施設の耐震化が進められたことは評価できます。

しかし、予算案審査の際に我が会派で指摘した大規模開発と基金への積立を優先させ、区民へは施策削減と負担増を押し付けたことは認められません。景気回復が叫ばれましたが、政府調査でも貧困と格差が拡大し、区民生活に大きな影響を及ぼしています。にもかかわらず、区は「財政非常事態」を喧伝し、この年度も教育・障害・高齢者分野で施策削減や保育料値上げの負担増を行いました。実質収支比率は区政史上最大の44億円の赤字、積立金の年度末残高は527億円にもなりました。

区の財政は「虚構の財政難」であることが明らかになりました。一方、中野駅周辺の大型開発は聖域化し、これら先も莫大な費用を投入する計画です。そのため住民との約束を反故に東中野小跡地の売却を計画するなど、区民犠牲のそしりを免れません。保育園に加え学童クラブの待機児童の増、特養ホームの待機者も減らせぬまま、施設整備に取り組みしていません。

国保・後期高齢者・介護保険の特別会計の決算は、保険料値上げが繰り返されたと同時に徴収強化が際立っています。被保険者の実態を把握することもなく、保険料軽減策拡充については不十分であることから認められません。

区民の生活実態を踏まえた施策展開を

民主党議員団

平成26年度普通会計の歳入歳出決算額合計は、歳入が1323億7712万8千円、歳出が1274億2957万6千円となり、実質単年度収支が44億円となりました。扶助費は6・5%の増となり、今後も社会保障費の伸びは続く事が予想される為、持続可能な財政運営が求められます。

個別施策では保育サービス拡充の姿勢、東中野駅前広場整備、子宮頸がん検診未受診者への受診勧奨、被災自治体への支援継続は評価します。主要三債権の収納率向上は評価しますが、公平性と歳入確保の観点からより一層の取組が求められます。また、大規模公園整備の方針は評価しますが、維持管理費等経常経費については抑制策を求めまます。一方、カーボン・オフセット事業は効果に疑問が残ります。体育館移転等平和の森公園再整備については歴史的経緯を踏まえ区民の理解を得られる計画になるよう要望します。学校設備改修や中部スポーツ・コミュニティプラザ利用率の低迷については改善策が求められます。現金管理においても不明金の発生は区政の信頼を損なうものです。徹底した再発防止を求めまます。

景気は回復傾向とされていますが、区民生活には反映されていません。決算の各種指標には改善傾向が見られますが、区民の生活実態にも目を向け必要な施策の展開を進めるよう求めまます。

中野区内で特殊詐欺被害1億円以上!
電話での「お金」の話は、詐欺を疑いましょう!
 不審な電話は110番! 中野警察署03(3366)0110 野方警察署03(3386)0110

